



ADMS-10

(FT-70D 用メモリー編集ソフト)

インストラクションマニュアル

ADMS-10 は FT-70D のセットアップメニュー設定やメモリー内容、メモリータグなどをパソコンで設定や編集することができるソフトウェアです。

目次

はじめに（概要）	3	・ステータスバー	19
本書の記号について	3	ウインドウ	19
ソフトウェア使用条件	3	各テンプレートタブの設定項目について	20
システム要件（動作環境）	3	メモリー	20
対応 OS	3	・標準メモリータブ	20
CPU	3	・SKIP 専用メモリータブ	20
RAM(システムメモリ)	3	・PMS 専用メモリータブ	20
HDD(Hard Disk)	4	各メモリータブの設定項目について	20
必要機器	4	・優先チャンネル	20
商標	4	・受信周波数 / 送信周波数	20
ADMS-10 セットアップの流れ	4	・シフト周波数	20
ADMS-10 のセットアップ	5	・シフト方向	21
準備	5	・AUTO MODE	21
ADMS-10 のインストール	5	・MODE	21
ADMS-10 のアンインストール	6	・AMS	21
ADMS-10 の起動	6	・DIG/ANALOG	21
FT-70D とパソコンとの接続	6	・メモリーネーム	21
ドライバーソフトウェアのインストール	8	・スケルチタイプ	21
表示例	10	・トーン周波数	21
初期画面	10	・DCS コード	21
メニューバー	10	・DCS 位相	21
タブメニュー	11	・送信出力	21
セットモード画面	11	・スキップ	22
メニューバーの名称とはたらき	12	・AUTO STEP	22
ファイルメニュー	12	・ステップ	22
・新規作成	12	・TAG	22
・開く	12	・メモリー消去情報	22
・閉じる	12	・ATT	22
・上書き保存	12	・S メータースケルチ	22
・名前を付けて保存	12	・BELL	22
・インポート (FT-70D 形式をインポート)	12	・Half DEV	22
・エクスポート (FT-70D 形式をエクスポート)	13	・Clock Shift	22
・印刷	13	・BANK 1 ~ BANK 24	23
・終了	13	・コメント	23
編集メニュー	14	VFO	24
・元に戻す	14	VFO タブの設定項目について	24
・切り取り	14	・受信周波数	24
・コピー	14	・送信周波数	24
・貼り付け	14	・シフト周波数	24
・検索	14	・シフト方向	24
・次を検索	14	・AUTO MODE	24
・チャンネル移動	15	・MODE	25
・チャンネル挿入	15	・AMS	25
・チャンネル削除	15	・DIG/ANALOG	25
・チャンネルクリア	15	・スケルチタイプ	25
・上へ移動	15	・トーン周波数	25
・下へ移動	15	・DCS コード	25
・周波数帯追加	16	・DCS 位相	25
・ソート	16	・PR TONE	25
通信メニュー (FT-70D とのデータ通信)	17	・送信出力	25
・FT-70D からデータ取得	17	・AUTO STEP	25
・FT-70D ヘデータ送信	17	・ステップ	25
設定	18	・ATT	26
・セットモード設定	18	・S メータースケルチ	26
・ツールバー	19	・BELL	26
・Clock Shift	26	・Half DEV	26
・コメント	26	・コメンツ	26

HOME	27
HOME タブの設定項目について	27
・受信周波数 / 送信周波数	27
・シフト周波数	27
・シフト方向	27
・AUTO MODE	27
・MODE	28
・AMS	28
・DIG/ANALOG	28
・メモリーネーム	28
・スケルチタイプ	28
・トーン周波数	28
・DCS コード	28
・DCS 位相	28
・PR TONE	28
・送信出力	28
・AUTO STEP	28
・ステップ	29
・TAG	29
・ATT	29
・S メータースケルチ	29
・BELL	29
・Half DEV	29
・Clock Shift	29
・コメント	29
トラブルシューティング	30
FT-70D からデータの受信ができない または通信がスタートしない	30
ADMS-10 から FT-70D へ データの送信ができない	30
または通信がスタートしない	30
データの送受信が途中で 止まってしまった	30
データのインポートエクスポート がうまくいかない	30

はじめに(概要)

ADMS-10 は、FT-70D のメモリーチャンネル、セットアップメニューなどを、パソコンを使って、効率よく、かつ簡単に編集することを可能にします。編集した設定データはパソコンにファイルとして自由に保存できます。また、設定データを FT-70D から読み込んだり、編集した設定データを FT-70D に転送することができます。

- VFO、メモリーチャンネル、HOME チャンネルなどの様々な編集（周波数、メモリーネーム、スケルチ設定、レピータ設定、送信電力など）
- メモリーバンクの編集
- 分かりやすい画面でセットモードの各種設定
- 検索やコピー、移動など使いやすい編集機能

本書の記号について

本書は、下記の記号を使って、重要な情報が記載されていることを示しています。

記号	説明
!	このアイコンは、お客様に理解して頂きたい注意と警告を示しています。
i	このアイコンは、役に立つ情報やヒントを示しています。
書	このアイコンは、関連した情報が記載されている他のページを示しています。

ソフトウェア使用条件

下記に示す“ソフトウェア使用条件”をよくお読みいただき同意の上で本ソフトウェアをダウンロードしてください。

- ・ソフトウェアの著作権は当社が保有しております。
- ・当社の許可なく取扱説明書やソフトウェアの内容の一部、または全部を複製、改変したり、電子メールに添付して送信したりすることはできません。
- ・取扱説明書やソフトウェアを利用して、金品との交換はできません。
- ・本ソフトウェアを使用した結果についての責任は、いかなる場合でも負いません。

ADMS-10 を使用するには、お使いになるパソコンにソフトウェアをインストールする必要がありますので、このマニュアルをよくお読みになり、ソフトウェアをインストールしてください。

システム要件（動作環境）

対応 OS

Microsoft® Windows® 10 (32 ビット / 64 ビット)
Microsoft® Windows® 8.1 (32 ビット / 64 ビット)
Microsoft® Windows® 7 (32 ビット / 64 ビット)

CPU

OS (オペレーティングシステム) のシステム要件を満たす性能を持つ CPU

RAM(システムメモリ)

OS (オペレーティングシステム) のシステム要件を満たす容量以上の RAM (システムメモリ)

HDD(Hard Disk)

OS（オペレーティングシステム）のシステム要件を満たす容量以上のHDD（ハードディスク）
なお、OSが動作する為に必要な空き容量とは別に、プログラムを実行する為に、約50MByte以上の
空き容量が必要です。

必要機器

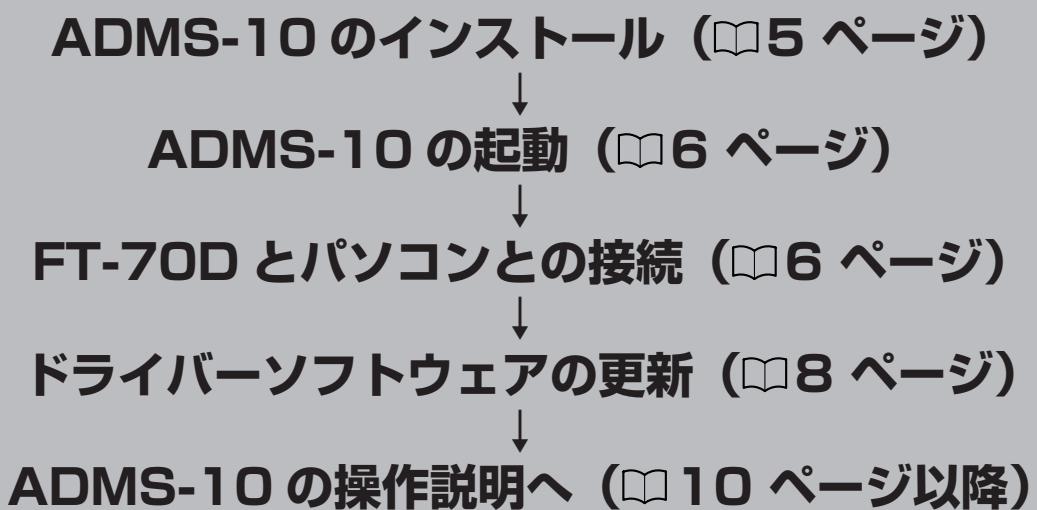
USBポート(USB1.1/USB2.0)を備えたパソコン

商標

Microsoft®、Windows®、Windows®7、Windows®8.1、Windows®10は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

ADMS-10 セットアップの流れ

ADMS-10を初めて利用する場合の手順は、下記となります。



ADMS-10のセットアップ

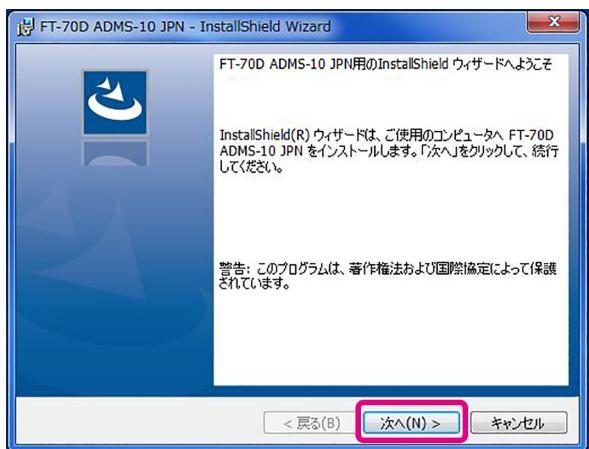
ADMS-10 のインストール手順を、Windows® 7 (64bit 版) を例に説明します。

準備

- あらかじめ、当社のホームページ (<http://www.yaesu.com/jp>) よりソフトウェアの圧縮ファイルをダウンロードしてください。
- ダウンロードしたファイルは、解凍して一つのフォルダーに入れておいてください。
- Administrator (管理者) 権限を持つユーザーでログインしてください。

ADMS-10 のインストール

1. パソコンの電源を入れ、Administrator (管理者) 権限でログオンします。
2. あらかじめ準備しておいた ADMS-10 のフォルダー内の「setup.exe」をダブルクリックします。
「.NET Frameworks」のインストール画面が表示された場合には指示に従ってインストールします。
3. 右のダイアログが表示されるので、「次へ」をクリックします。



4. インストール先フォルダーを指定し、「次へ」をクリックします。
5. 「インストール」をクリックします。
「ユーザー アカウント 制御」ダイアログボックスが表示された場合には、「はい」をクリックします。
6. ソフトウェアのインストールが行われ、右のダイアログが表示されたら、「完了」をクリックしてインストールを終了します。



ADMS-10 のアンインストール

ADMS-10 のアンインストール手順を、Windows® 7 (64bit 版) を例に説明します。

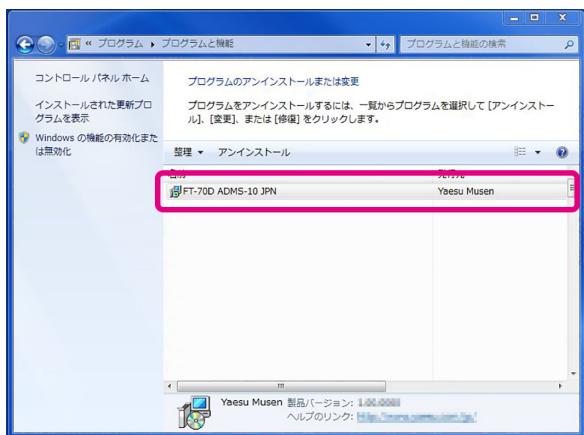
1. FT-70D とパソコンを USB ケーブルで接続している場合は、取り外します。
2. パソコンのデスクトップから「スタート」⇒「コントロールパネル」⇒「プログラムのアンインストール」をクリックします。



「プログラムのアンインストール」が表示されていない場合は、「プログラムと機能」をクリックします。

3. 「FT-70D ADMS-10 JPN」を選択し、「アンインストール」をクリックします。

- ・「ユーザーアカウント制御」ダイアログボックスが表示された場合には、「はい」をクリックします。
- ・アンインストールが開始されます。以上でアンインストール作業は終了です。



ADMS-10 の起動

デスクトップ上の「FT-70D ADMS-10 JPN」アイコンをダブルクリックして ADMS-10 を起動します。

ADMS-10 を終了するには、「ファイル」メニューから「終了」をクリックします。

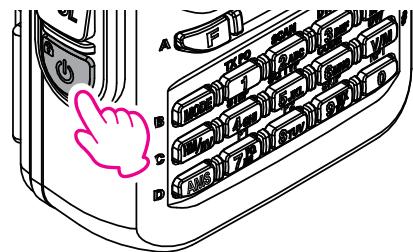


FT-70D とパソコンとの接続

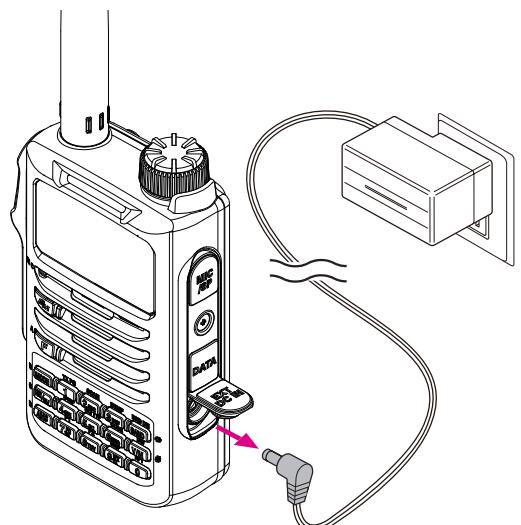
1. FT-70D の電池パックを外した状態で、EXT DC IN 端子にバッテリーチャージャー (SAD-18B) のプラグを接続し、電源プラグをコンセントに接続します。
ディスプレイに “EXT DC” と表示されます。



2. FT-70D の [電源] スイッチを長押しして、電源をオンにします。

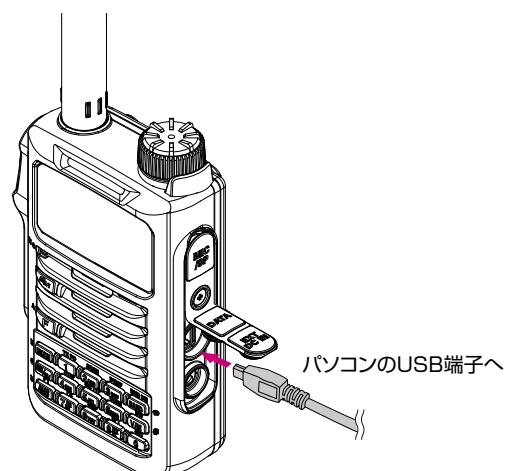


3. 電源オンの状態のまま、無線機本体から SAD-18B のプラグを取り外します。



4. FT-70D 付属の USB ケーブルを本体の DATA 端子に接続し、一方をパソコンの USB 端子に接続します。

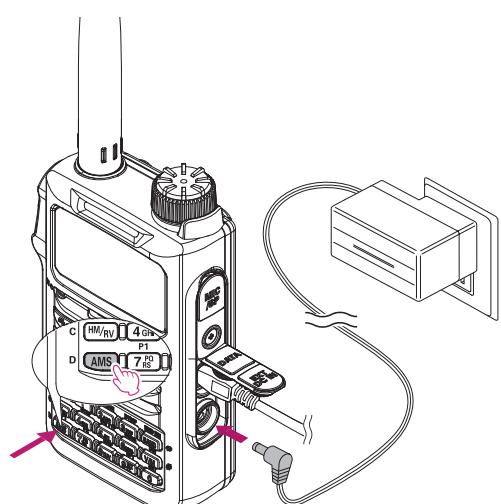
USB ケーブルを本体の DATA 端子に接続するときは「カチッ」と音がするまで確実に差し込みます。



5. [AMS] キーを押しながら、FT-70D の EXT DC IN 端子に SAD-18B のプラグを接続します。

FT-70D のディスプレイに “ADMS” と表示されます。

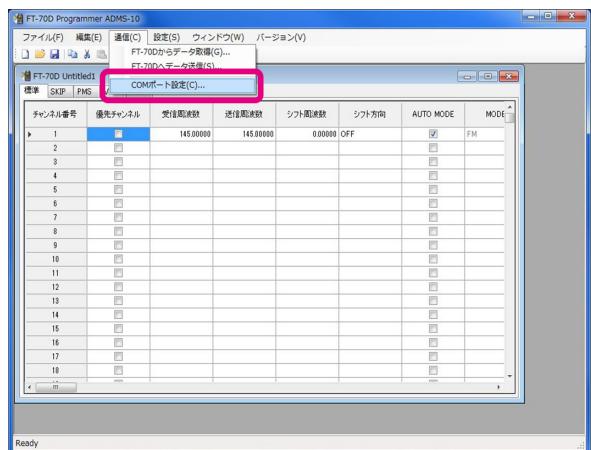
パソコンとの接続は以上です。



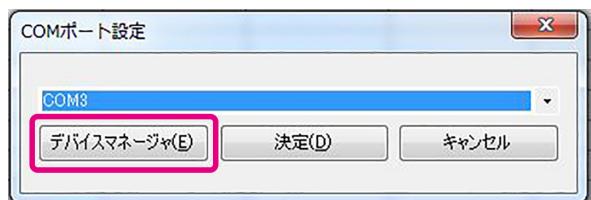
ドライバーソフトウェアのインストール

FT-70D とパソコンを初めて接続したときには、パソコンにドライバーソフトウェアをインストールする必要があります。

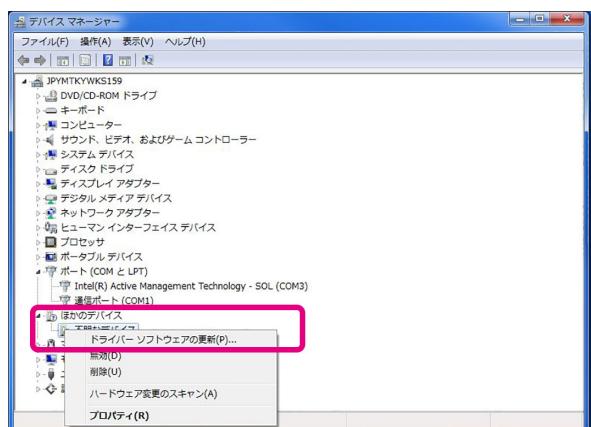
1. FT-70D とパソコンを接続します（「FT-70D とパソコンとの接続」を参照）。
2. ADMS-10 を起動します（「ADMS-10 の起動」を参照）。
3. 通信メニューから「COM ポート設定」をクリックします。



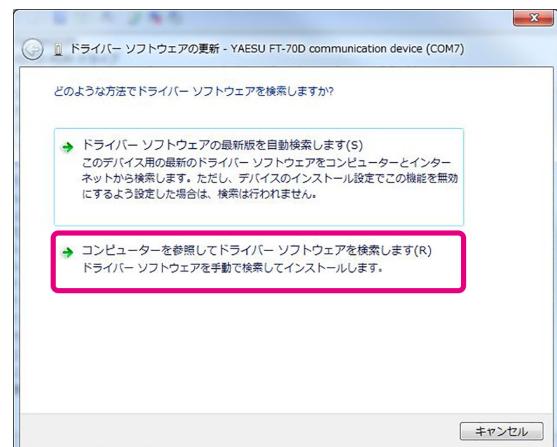
4. 「デバイスマネージャ」をクリックします。



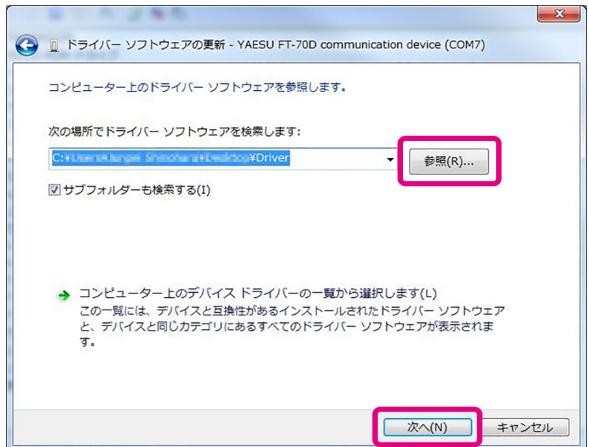
5. デバイスマネージャ画面の「ほかのデバイス」⇒「不明なデバイス」をマウスで右クリックして、「ドライバーソフトウェアの更新」をクリックします。



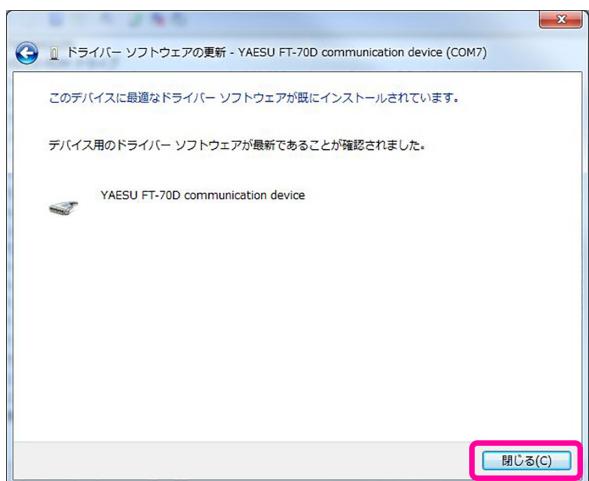
6. 「コンピューターを参照してドライバーソフトウェアを検索します」をクリックします。



7. 「参照」をクリックして、ADMS-10 のインストール時に圧縮ファイルを解凍したフォルダーの中の「Driver」フォルダーを選択してから、「次へ」をクリックします。



8. ドライバーソフトウェアがインストールされたことが確認できる画面が表示されたら、「閉じる」をクリックします。



9. デバイスマネージャ画面の「ポート (COM と LPT)」に「YAESU FT-70D communication device(COM**)」と表示されているか確認します。

- ・表示されていたら、ドライバーソフトウェアのインストールは以上です。表示されていない場合は、手順 1 からやり直してください。
- ・(COM**) とはポート番号です。この COM ポート番号をメモしておいてください。

10. ADMS-10 を一度終了して、もう一度起動します。

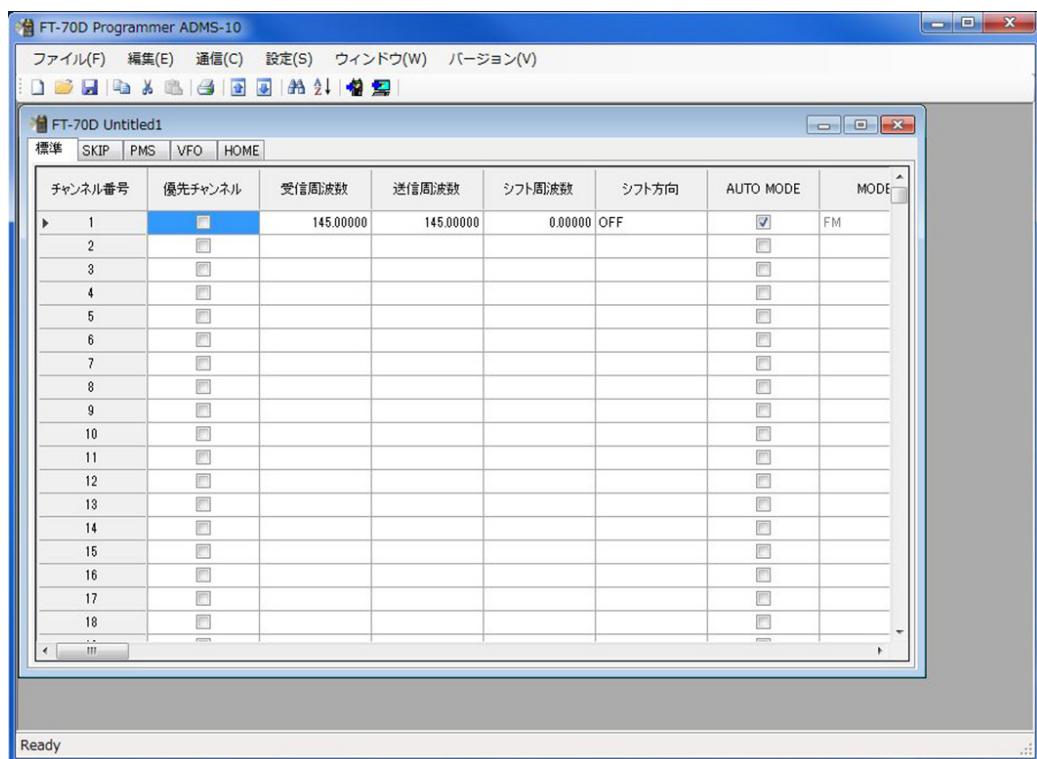
11. プルダウンメニューの「通信」→「COM ポート設定」をクリックして、手順 9. でメモしたポート番号を選択して、[決定] をクリックします。

- ・インストール作業を終了するには、ADMS-10 を終了し、FT-70D の電源をオフにしてから、ケーブル類を抜きます。

表示例

初期画面

ADMS-10 を起動したときに最初に表示される画面です

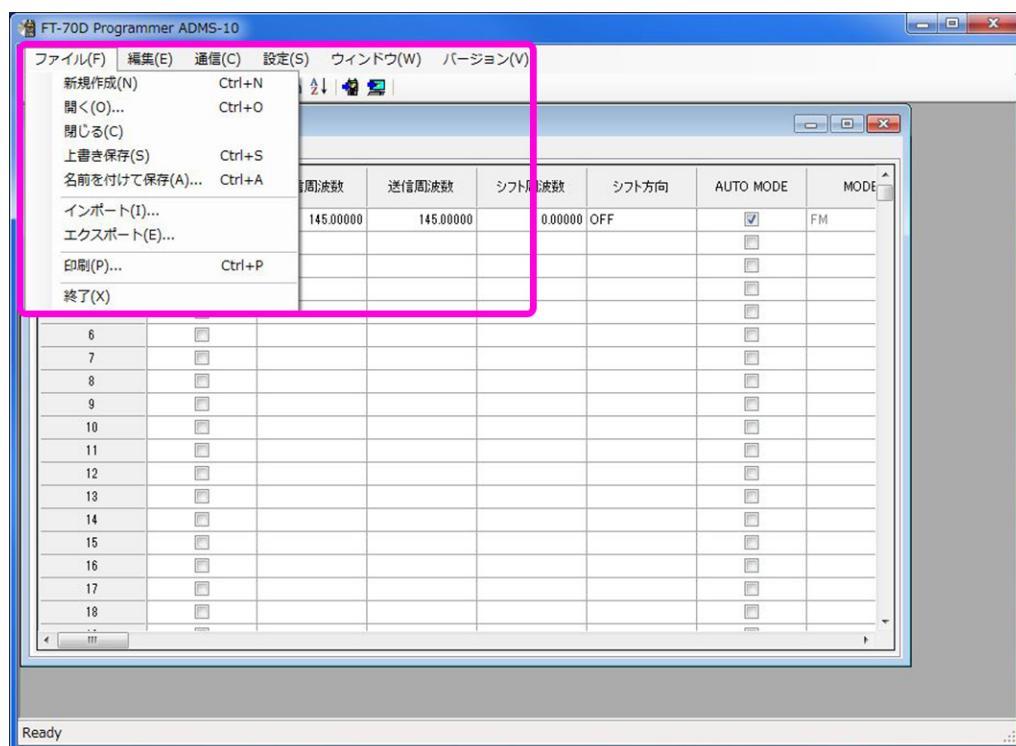


メニューバー

メニューバーをクリックすると、データファイルのインポート、エクスポート、FT-70Dとのデータ取得やデータ送信などの設定ができます。



詳細については、「メニューバーの名称とはたらき」をご覧ください。



タブメニュー

表示上部のタブメニュー（PMS や VFO など）をクリックすると、メモリーチャンネルや VFO などの周波数リストを表示させることができます。



詳細については、「各テンプレートタブの設定項目について」をご覧ください。

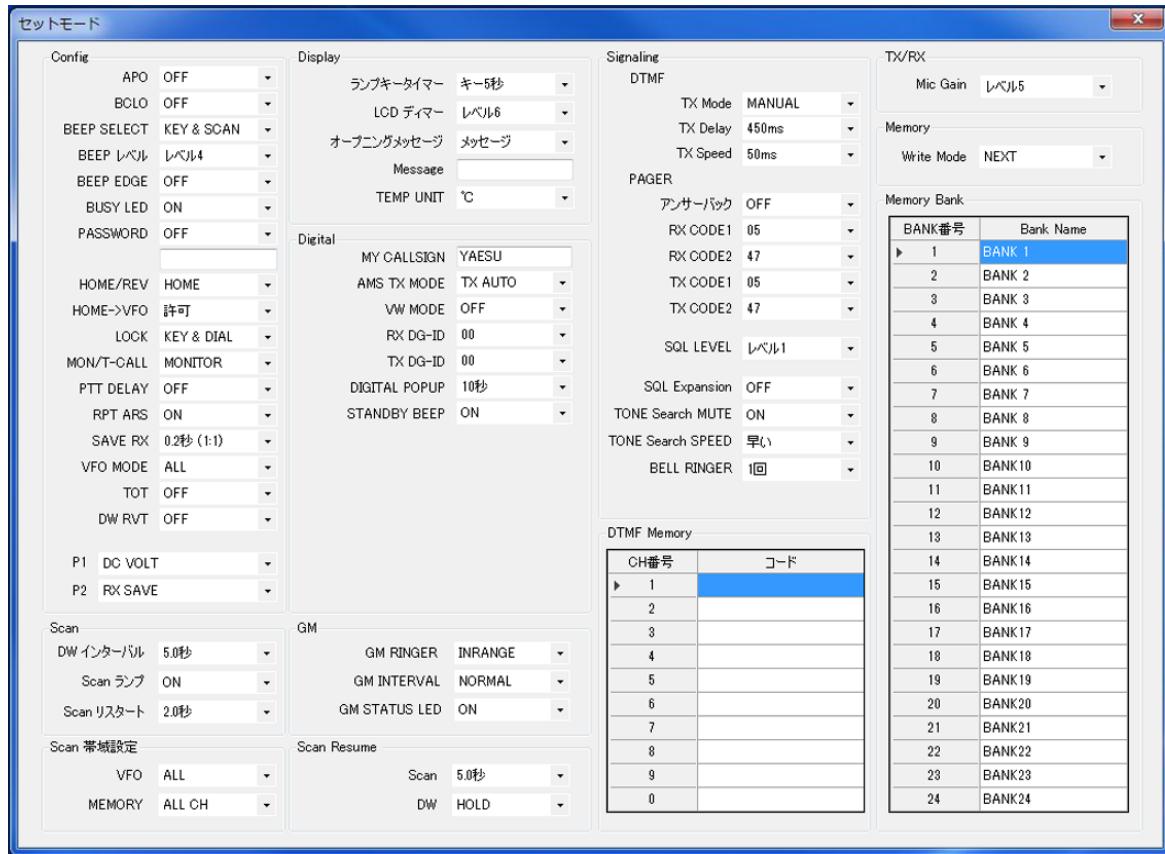


セットモード画面

メモリーチャンネルに関連しない、基本的なセッティング項目は、セットモード設定で行います。
「設定」→「セットモード設定」をクリックすると、以前設定されていた内容でセットモードが起動します。



詳細については、「設定」をご覧ください。



メニューバーの名称とはたらき

ファイルメニュー



・新規作成

「ファイル」→「新規作成」をクリックすると、新規作成用のテンプレートファイルが起動します。

複数のテンプレートファイルを同時に開き、作成することができます。

各メモリーや VFO、セットモードには標準の設定値があらかじめ設定されています。

・開く

「ファイル」→「開く」をクリックすると、PC に保存されている既存のテンプレートファイルを開くことができます。

既存のデータ保存先のフォルダを指定して「開く」ボタンを押します。

・閉じる

「ファイル」→「閉じる」をクリックすると、選択されているテンプレートファイルを閉じます。

・上書き保存

「ファイル」→「上書き保存」をクリックします。

選択されているテンプレートファイルのファイル名を変えずに上書き保存します。

・名前を付けて保存

「ファイル」→「名前を付けて保存」をクリックします。

選択されているテンプレートファイルをファイル名と保存先のフォルダを指定して、[保存]をクリックして保存します。

・インポート (FT-70D 形式をインポート)

データファイルは、Excel などの表計算アプリケーションでも作成することができます。

インポート用のデータファイルは、テンプレートファイルデータ毎にカンマ区切りの CSV ファイル形式で保存します。

最も簡単な方法は、ADMS-10 で設定されている基本テンプレートファイルをエクスポートして利用することで、エクスポートした CSV ファイルを編集して ADMS-10 にインポートします。

新たに作成する場合は、列数をテンプレートファイルと同数に設定して、セル内に設定項目に一致するデータを入力します。

インポートするデータファイルは、インポートするメモリーテンプレートごとに必要です。例えば、標準メモリー、VFOなどをインポートする場合は、それぞれのファイルを個別に作成しておきます。まず、インポートしたいメモリーテンプレートを開いて、それからインポートを実行します。



CSV形式で保存したテンプレートファイルの「コメント」列の右に「Check」列がありますが、この列は編集しないでください。

・エクスポート(FT-70D形式をエクスポート)

カンマ区切りの CSV ファイル形式でデータファイルを出力することができます。「ファイル」→「エクスポート」をクリックすると、現在開いているテンプレートファイルを CSV ファイル形式で指定のフォルダに出力します。「名前を付けて保存」画面が開きますので、保存先とファイル名を決定して保存します。

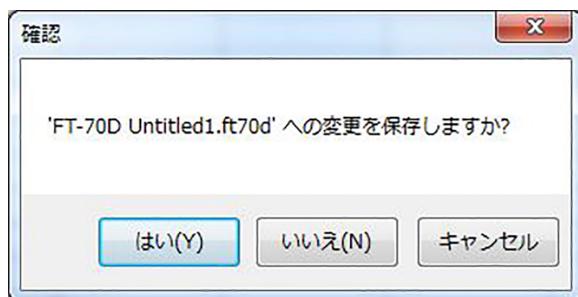
・印刷

「ファイル」→「印刷」をクリックすると、選択されているテンプレートファイルのデータを印刷することができます。印刷したい開始行と終了行を設定して [印刷開始] をクリックします。印刷設定の詳細は、[プリンタ設定] をクリックしてプロパティを参照してください。



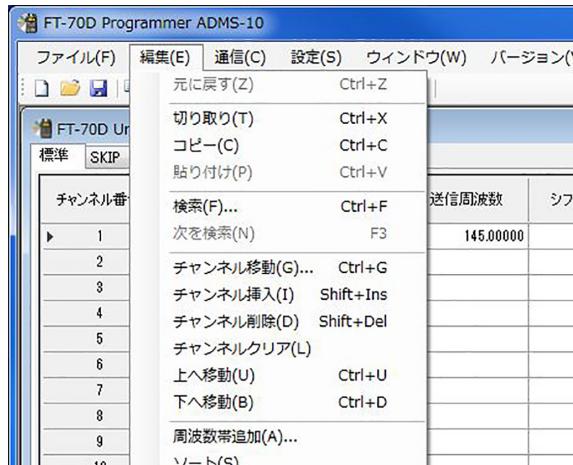
・終了

「ファイル」→「終了」をクリックすると、ADMS-10が終了します。保存確認のポップアップ画面が表示された場合は、指示に従って選択して終了します。



編集メニュー

編集したい行をクリックにより指定してから以下のそれぞれの操作を行います。



各行の一部の設定項目を切り取り、コピー、貼り付けをすることはできません。

・元に戻す

「編集」→「元に戻す」をクリックすると、編集した内容が一つ前の状態に戻ります。

・切り取り

「編集」→「切り取り」をクリックすると、指定した行の内容を切り取ります。

・コピー

「編集」→「コピー」をクリックすると、指定した行の内容がコピーされます。

・貼り付け

「編集」→「貼り付け」をクリックすると、指定した行へコピーした内容を貼り付けます。

・検索

「編集」→「検索」をクリックすると、検索ワード画面が起動します。



検索場所の指定、検索テキストを入力し、[検索]をクリックします。

該当する文字列が見つかった場合は、テンプレートの該当する文字列が反転します。

・次を検索

「編集」→「次を検索」をクリックすると、検索して該当する文字列の次候補に移動します。

・チャンネル移動

「編集」→「チャンネル移動」をクリックすると、選択されている行を移動するチャンネルを指定する画面が起動します。



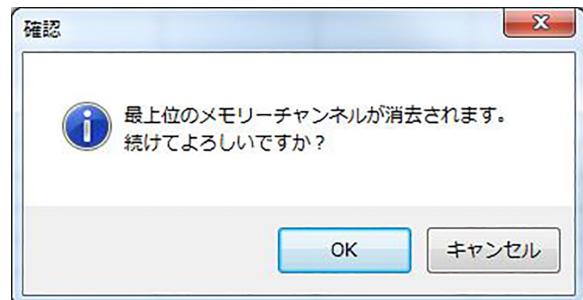
希望のチャンネルを入力し、[移動] をクリックすると、選択されている行が指定したチャンネルに移動します。

選択した行が空白、または選択した行と移動後の行が同じ行の場合は、移動後の行が空白になります。

・チャンネル挿入

「編集」→「チャンネル挿入」をクリックすると指定したチャンネルに新規の情報を挿入します。このとき挿入するチャンネル番号より大きい番号の既存のチャンネルデータは、挿入したチャンネル番号以降にそれぞれ順に移動します。

もし、最上位チャンネルにデータがある場合は、「最上位のメモリーチャンネルが消去されます。続けてよろしいですか？」という確認のメッセージが出ますので、消去を許可する場合は、[OK] ボタンをクリックします。



・チャンネル削除

「編集」→「チャンネル削除」をクリックすると、指定した範囲のチャンネル情報を削除します。削除了した場合、削除された以降の既存チャンネルは、上詰めで移動します。

・チャンネルクリア

「編集」→「チャンネルクリア」をクリックすると、指定した範囲のチャンネル情報をクリアします。クリアしても以降の既存チャンネルは移動せず、クリアしたチャンネルはそのまま空白になります。

・上へ移動

「編集」→「上へ移動」をクリックすると、指定したチャンネルの内容を 1 行上へ移動します。移動先に依存のチャンネルがある場合は、既存チャンネルの内容と入れ換わります。

・下へ移動

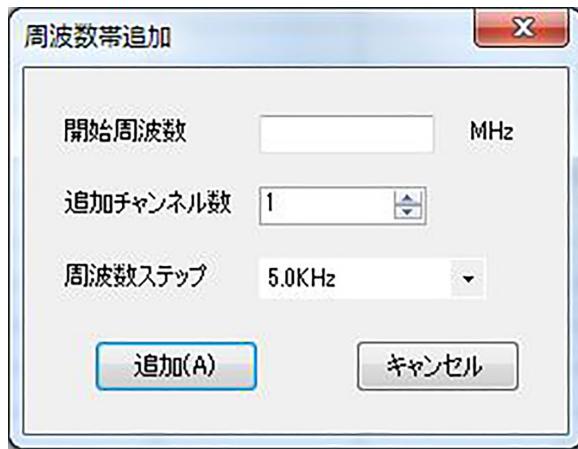
「編集」→「下へ移動」をクリックすると、指定したチャンネルの内容を 1 行下へ移動します。

移動先に依存のチャンネルがある場合は、既存チャンネルの内容と入れ換わります。

・周波数帯追加

「編集」→「周波数帯追加」をクリックすると、周波数帯追加の画面が起動します。

開始周波数から指定の周波数ステップで指定のチャンネル数のメモリーチャンネルを追加作成することができます。



開始周波数： 追加する開始周波数を入力します。

追加チャンネル数： 追加するメモリーチャンネル数を入力します。

周波数ステップ： メモリーチャンネルの周波数ステップ間隔を入力します。

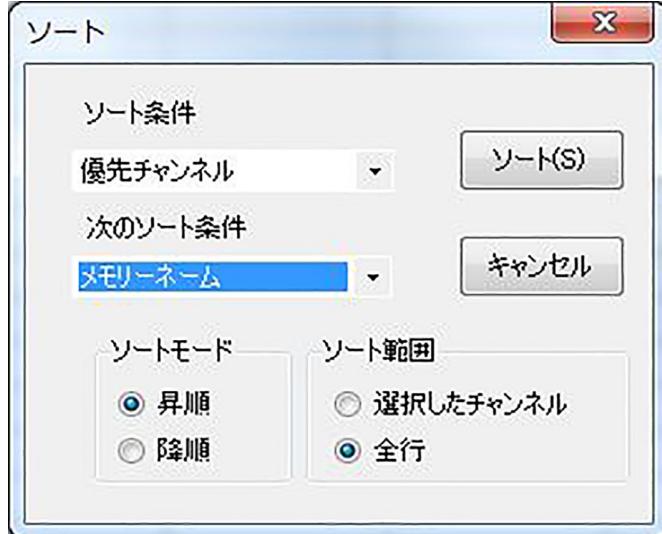
[追加]をクリックすると、指定したメモリーチャンネルが追加作成されます。



周波数ステップ8.33kHzはエアバンド(108～136.995MHz)の範囲内で設定できます。

・ソート

「編集」→「ソート」をクリックするとソートの条件を設定する画面が起動します。



ソート条件： 周波数順など、1番目のソート条件を選択します。

次のソート条件： 1番目のソート条件が一致した場合の2番目のソート条件を選択します。

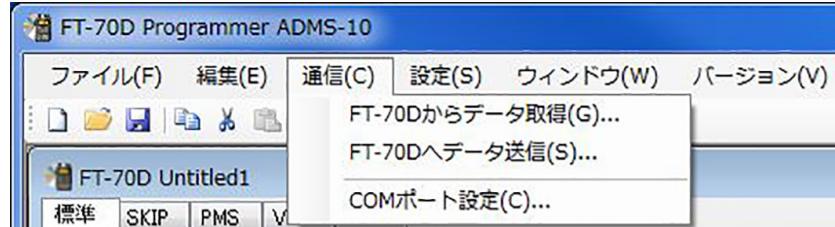
ソートモード： ソート実行時、順番を昇順、降順にするかを選択します。

ソート範囲： ソート実行時選択したチャンネル行か、すべてのチャンネル行かを選択します。

[ソート]ボタンをクリックするとソートを実行します。

ソート後でも「編集」→「元に戻す」をクリックするとソート前の状態に戻すことができます。

通信メニュー (FT-70D とのデータ通信)



・FT-70D からデータ取得

FT-70D の設定内容を ADMS-10 に転送することができます。FT-70D と通信してデータの新規作成を行います。通信メニューの「FT-70D からデータ取得」をクリックすると、データ受信手順の画面が開きます。FT-70D とパソコンを通信ケーブルで接続します。

画面に表示される指示に従い、FT-70D からデータを受信します。データの受信が完了すると、「Completed」と表示され、「Close」をクリックするとパソコンの画面上に、FT-70D から転送されたデータのテンプレート画面が表示されます。

これらの内容は、パソコン上で自由に編集することができます。



受信したデータは「ファイル」→「上書き保存」または「名前を付けて保存」をクリックして、希望するフォルダにファイルを保存することができます。

・FT-70D へデータ送信

ADMS-10 で設定したデータを FT-70D に送信することができます。

通信メニューの「FT-70D へデータ送信」をクリックすると送信手順画面が開きます。



以前に作成したデータを FT-70D に送信する場合は、「ファイル」→「開く」をクリックし、希望するファイルを開いてから、上記の操作を行ってください。

FT-70D とパソコンを通信ケーブルで接続します。

画面に表示される指示に従い、FT-70D にデータを送信します。データの送信が終了すると、「Completed」と表示され、「Close」をクリックして下さい。次に USB ケーブルとバッテリーチャージャー(SAD-18B)のプラグを FT-70D から抜き、電池パックを取り付けると自動的に FT-70D が、データで設定されていた状態で立ち上がりります。

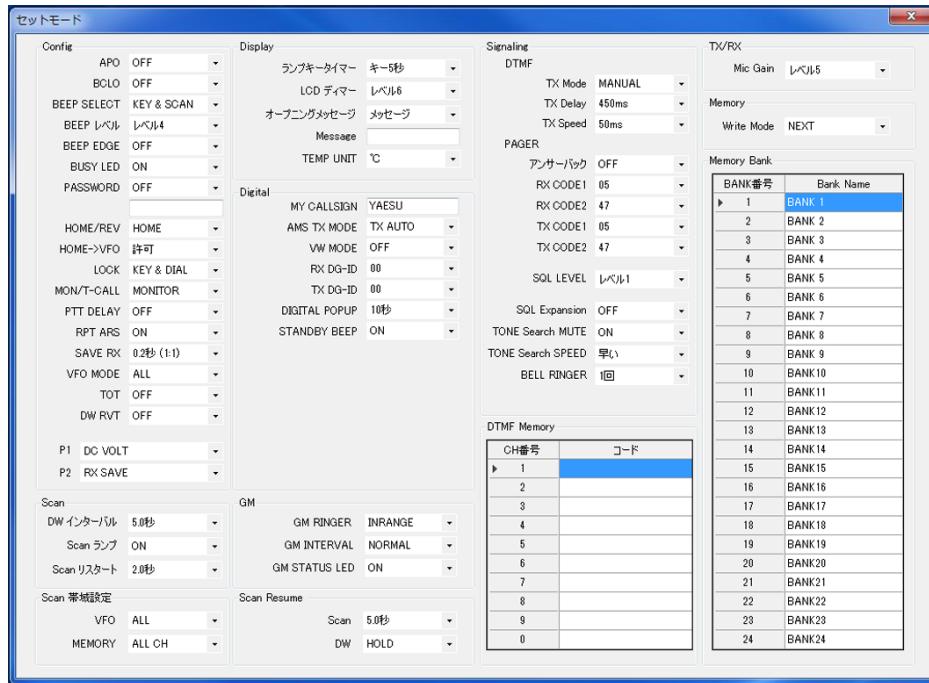


- ・データの送受信中は、通信ケーブルを絶対に抜かないでください。
- ・FT-70D やパソコンに接続している電源や電源ケーブルには十分注意し、データの送受信中に絶対に電源が切れないようにしてください。

設定

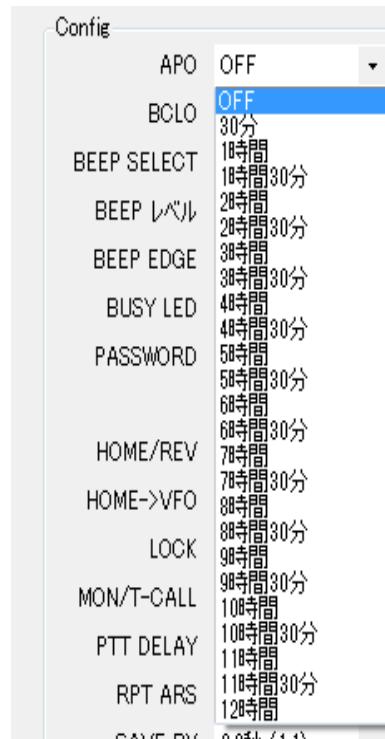
・セットモード設定

セットモードでは、FT-70D のさまざまな機能を使い方にあわせてカスタマイズできます。ADMS-10 ではセットモードを分かりやすく表示し、設定値を変更、保存することができます。「設定」→「セットモード設定」をクリックするとセットモード画面を起動します。



設定内容の編集は各設定項目の右側の▼タブをクリックして設定値を選択します。

表示例：



各設定項目の詳細動作については、FT-70D の取扱説明書を参照してください。
セットモードの設定が終了しましたら、セットモード設定画面の右上の×をクリックします。

・ツールバー

ツールバーにあるアイコンの表示、非表示を設定します。

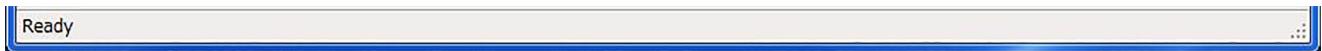
「設定」→「ツールバー」にチェックマークを入れると常にツールバーが表示されます。



・ステータスバー

編集画面下部にあるステータスの表示、非表示設定で、ADMS-10 が現在どのような操作モードにあるかを表示します。

「設定」→「ステータスバー」にチェックマークを入れると常に表示されます。



ウインドウ

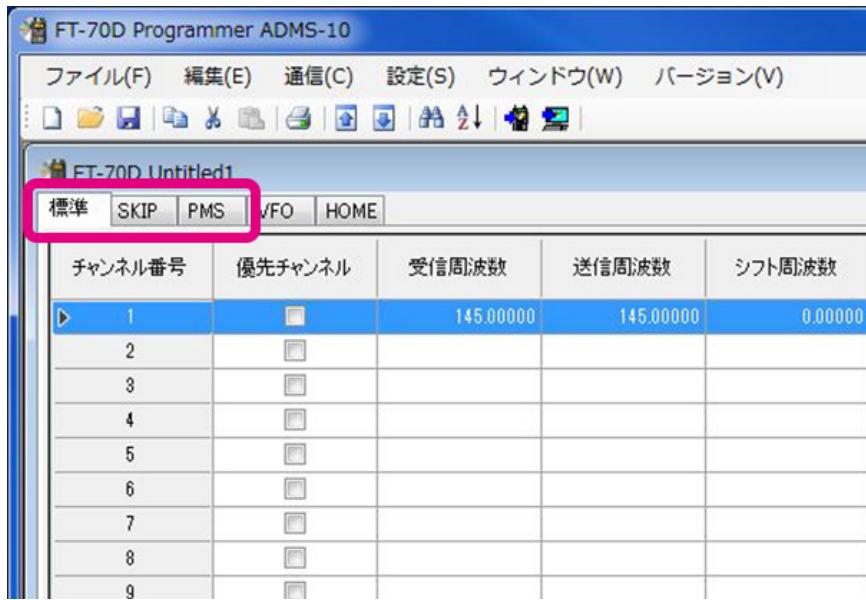
編集画面の表示ウインドウ設定を行います。

- ・「ウインドウ」→「重ねて表示」をクリックすると複数のテンプレートファイルを重ねて表示します。
- ・「ウインドウ」→「上下に並べて表示」をクリックすると複数のテンプレートファイルを上下に分割して並べて表示します。
- ・「ウインドウ」→「左右に並べて表示」をクリックすると複数のテンプレートファイルを左右に分割して並べて表示します。

各テンプレートタブの設定項目について

メモリー

標準メモリー / SKIP 専用メモリー / PMS 専用メモリーを編集します。



・標準メモリータブ

通常使用する周波数のメモリー編集を行います。最大 900 チャンネル登録することができます。

・SKIP 専用メモリータブ

VFO スキャンを行うときに、常時信号を受信する周波数があると、一時停止してしまうことがあるので、それらの周波数をスキップさせるためのメモリー編集を行います。最大 99 チャンネル登録することができます。

・PMS 専用メモリータブ

PMS (プログラマブルメモリースキャン) を行う際の、上下限周波数を編集します。
L チャンネルに下限周波数、U チャンネルに上限周波数を入力します。最大 50 組 (100 チャンネル) の PMS 登録することができます。

各メモリータブの設定項目について

・優先チャンネル

デュアルレシーブ (DW) 動作時に優先して受信するチャンネルで、標準メモリーに 1 つだけ設定することができます。希望のチャンネルにチェックマークを付けて設定します。
標準メモリーのみにこの機能を付加できます。

・受信周波数 / 送信周波数

送受信したい周波数を入力します。入力後、→ キーで右移動し、入力したチャンネルの詳細設定を続けます。ENTER または ↓ キーで次のチャンネルの入力欄に移動します。送受信周波数は個別に設定できます。

・シフト周波数

送信周波数を設定しない場合は、受信周波数からシフト周波数分を加減した周波数で送信します。

• シフト方向

シフト方向をセットします。

OFF : 送信時に送信周波数をシフトしません。

- RPT : 送信時にシフト周波数に設定された分だけマイナス方向にシフトします。

+ RPT : 送信時にシフト周波数に設定された分だけプラス方向にシフトします。

- / + : 送信時に送信周波数に設定された周波数で送信します。

• AUTO MODE

ここにチェックマークを付けると、周波数を入力したときに、その周波数に応じた最適の電波形式が自動的に設定されます。チェックマークを外すと、MODE で電波形式を選択できるようになります。

• MODE

受信するチャンネルの電波形式を選択します。

FM : FM モードで受信します。

AM : AM モードで受信します。

• AMS

受信した信号にあわせて通信モードを自動的に選択する AMS (Automatic Mode Select) 機能の ON/OFF を設定できます。

• DIG/ANALOG

V/D モード(DN)、Voice FR モード(VW)または ANALOG モード(FM/AM モード)を設定できます。



セットモード設定で VW MODE を OFF にしている場合は、VW を設定できません。

• メモリーネーム

半角英数字6文字のメモリーネームの入力ができます。

• スケルチタイプ

スケルチタイプを選択します。

• トーン周波数

トーンスケルチを設定した場合のトーン周波数を選択します。

• DCS コード

DCS を設定した場合の DCS コードを選択します。

• DCS 位相

送受信で DCS コードの位相反転を設定します。相手局と DCS による通話ができない場合に位相を変えることにより通話ができるようになります。

• PR TONE

私鉄の空線信号や、MCA 無線の制御信号等を除去するための空線周波数を選択します。

• 送信出力

送信出力の設定を行います。

• スキップ

受信するチャンネルのスキャン条件を選択します。

OFF : セットモードの基本設定 SCAN RESUME の条件でスキャンを行います。

SKIP : 設定するとスキャン中は設定したメモリーチャンネルをスキップします。

SELECT : 設定したチャンネルからスキャンスタートすると、設定したチャンネルのみをスキャンします。

• AUTO STEP

ここにチェックマークを付けると、周波数帯にあわせて最適な周波数ステップ (DIAL ツマミをまわしたときの周波数変化量) に自動で切り替わるオートステップに設定できます。チェックマークを外すと、ステップの周波数設定を選択できるようになります。

• ステップ

受信するチャンネルのチャンネルステップを設定します。

• TAG

メモリーネームを設定すると自動的に TAG にチェックマークが入ります。FT-70D 上でこのメモリーを呼び出したときに、設定したメモリーネームを表示します。チェックマークを外すと、メモリーネームの代わりに受信周波数を表示します。

• メモリー消去情報

ここにチェックマークを付けると、一時的にそのチャンネルを呼び出すことができなくなります。チェックマークをはずすと、メモリーチャンネルを呼び出すことができるようになります。

• ATT

ここにチェックマークを付けると、受信感度を約 10dB 下げることができます。隣接する強力な電波によって受信妨害があったときなどに有効です。

• S メータースケルチ

ここにチェックマークを付けると、通常のノイズスケルチと同時に S メーターの振れでスケルチ設定を行うことができます。

• BELL

スケルチタイプで設定した条件が一致した信号を受信したとき、呼び出し音を出力する機能です。呼び出しベル音の回数を設定します。

• Half DEV

送信デビエーションを約 1/2 にする機能を設定します。

• Clock Shift

マイコンのクロックによる内部スプリアスを受信してしまう場合、ON にする (チェックを入れる) ことで改善する場合があります。

通常は OFF (チェックを入れない) で使用してください。

• BANK 1 ~ BANK 24

標準メモリーに登録したチャンネルや、プリセットメモリーのチャンネルを BANK 1 ~ BANK24 の各メモリーバンクに最大 100 チャンネルまで登録することができます。登録したいメモリーバンクにチェックマークを入れます。

メモリーバンクを呼び出すと、そのメモリーバンクに登録されたメモリーチャンネルだけを呼び出すことができます。

• コメント

登録したメモリーチャンネルにコメントを付けることができます。最大全角 255 文字のコメントを付けることができます。メモリーチャンネルのジャンル別の名称等の整理に使用してください。
なお、コメントの内容は FT-70D には転送されません。

VFO

VFO を編集します。



VFO タブの設定項目について

・受信周波数

VFO 周波数を入力します。ADMS-10 の標準テンプレートには、FT-70D のデフォルトの周波数が設定されています。

バンド区分を越える周波数の入力はできません。エラーメッセージがポップアップするので、正しい周波数を入力してください。



・送信周波数

送信周波数はグレー表示となり、受信周波数を設定するとシフト周波数とシフト方向により自動的に送信周波数が設定され変更できません。

・シフト周波数

受信周波数からシフト周波数分を加減した周波数で送信します。

・シフト方向

シフト方向をセットします。

OFF : 送信時に送信周波数をシフトしません。

- RPT : 送信時にシフト周波数に設定された分だけマイナス方向にシフトします。

+ RPT : 送信時にシフト周波数に設定された分だけプラス方向にシフトします。

・AUTO MODE

ここにチェックマークを付けると、周波数を入力したときに、その周波数に応じた最適の電波形式が自動的に設定されます。チェックマークを外すと、MODE で電波形式を選択できるようになります。

• MODE

受信するチャンネルの電波形式を選択します。

FM : FM モードで受信します。

AM : AM モードで受信します。

• AMS

受信した信号に合わせて通信モードを自動的に選択する AMS (Automatic Mode Select) 機能の ON/OFF を設定できます。

• DIG/ANALOG

V/D モード(DN)、Voice FR モード(VW)または ANALOG モード(FM/AM モード)を設定できます。



セットモード設定で VW MODE を OFF にしている場合は、Voice FR モード (VW) は設定できません。

• スケルチタイプ

送受信するチャンネルのスケルチタイプを選択します。

• トーン周波数

トーンスケルチを設定した場合のトーン周波数を選択します。

• DCS コード

DCS を設定した場合の DCS コードを選択します。

• DCS 位相

送受信で DCS コードの位相反転を設定します。通話相手局と DCS による通話ができない場合に位相を変えることにより通話ができるようになります。

• PR TONE

私鉄の空線信号や、MCA 無線の制御信号等を除去するための空線周波数を選択します。

• 送信出力

送信出力の設定を行います。

• AUTO STEP

ここにチェックマークを付けると、周波数帯にあわせて最適な周波数ステップ (DIAL ツマミをまわしたときの周波数変化量) に自動で切り替わるオートステップに設定できます。チェックマークを外すと、ステップの周波数設定を選択できるようになります。

• ステップ

受信するチャンネルのチャンネルステップを設定します。

• ATT

ここにチェックマークを付けると、受信感度を約 10dB 下げることができます。隣接する強力な電波によって受信妨害があったときなどに有効です。

• S メータースケルチ

ここにチェックマークを付けると、通常のノイズスケルチと同時に S メーターの振れでスケルチ設定を行なうことができます。

• BELL

スケルチタイプで設定した条件が一致した信号を受信したとき、呼び出し音を出力する機能です。呼び出しベル音の回数を設定します。

• Half DEV

送信デビエーションを約 1/2 にする機能を設定します。

• Clock Shift

マイコンのクロックによる内部スプリアスを受信してしまう場合、ON にする（チェックを入れる）ことで改善する場合があります。

通常は OFF（チェックを入れない）で使用してください。

• コメント

編集した VFO にコメントを付けることができます。最大全角 255 文字のコメントを付けることができます。VFO のジャンル別の名称等の整理に使用してください。なお、コメントの内容は FT-70D には転送されません。

HOME

HOME チャンネルを編集します。

The screenshot shows the FT-70D Programmer ADMS-10 application window. The title bar says "FT-70D Programmer ADMS-10". The menu bar includes "ファイル(F)", "編集(E)", "通信(C)", "設定(S)", "ウィンドウ(W)", and "バージョン(V)". Below the menu is a toolbar with various icons. The main area has a title "FT-70D Untitled1" and tabs: "標準", "SKIP", "PMS", "VFO", and "HOME", which is highlighted with a red box. Below the tabs is a table with columns: バンド, 受信周波数, 送信周波数, シフト周波数, and シフト方向. The table rows list various frequency bands with their respective receive and transmit frequencies and shift values.

バンド	受信周波数	送信周波数	シフト周波数	シフト方向
エアバンド	108.00000	108.00000	0.00000	OFF
144MHz帯	145.00000	145.00000	0.00000	OFF
その他VHF帯	175.75000	175.75000	0.00000	OFF
情報無線帯1	380.00000	380.00000	0.00000	OFF
430MHz帯	433.00000	433.00000	5.00000	OFF
その他UHF帯	481.75000	481.75000	0.00000	OFF

HOME タブの設定項目について

・受信周波数 / 送信周波数

HOME チャンネル周波数を入力します。ADMS-10 の標準テンプレートには、FT-70D のデフォルトの周波数が設定されています。

バンド区分を越える周波数の入力はできません。エラーメッセージがポップアップするので、正しい周波数を入力してください。受信周波数を入力すると自動的に送信周波数が設定されます。



・シフト周波数

送信周波数を設定しない場合は、受信周波数からシフト周波数分を加減した周波数で送信します。

・シフト方向

シフト方向をセットします。

OFF : 送信時に送信周波数をシフトしません。

- RPT : 送信時にシフト周波数に設定された分だけマイナス方向にシフトします。

+ RPT : 送信時にシフト周波数に設定された分だけプラス方向にシフトします。

- / + : 送信時に送信周波数に設定された周波数で送信します。

・AUTO MODE

ここにチェックマークを付けると、周波数を入力したときに、その周波数に応じた最適の電波形式が自動的に設定されます。チェックマークを外すと、MODE の電波形式を選択できるようになります。

• MODE

受信するチャンネルの電波形式を選択します。

FM： アマチュア無線、情報無線の通常の帯域幅に使用します。

AM： 航空無線等に使用します。

• AMS

受信した信号に合わせて通信モードを自動的に選択する AMS (Automatic Mode Select) 機能の ON/OFF を設定できます。

• DIG/ANALOG

V/D モード(DN)、Voice FR モード(VW)または ANALOG モード (FM/AM モード) を設定できます。



セットモード設定で VW MODE を OFF にしている場合は、VW を設定できません。

• メモリーネーム

最大6文字のメモリーネームの入力ができます。

• スケルチタイプ

送受信するチャンネルのスケルチタイプを選択します。

• トーン周波数

トーンスケルチを設定した場合のトーン周波数を選択します。

• DCS コード

DCS を設定した場合の DCS コードを選択します。

• DCS 位相

送受信で DCS コードの位相反転を設定します。通話相手局と DCS による通話ができない場合に位相を変えることにより通話ができるようになります。

• PR TONE

私鉄の空線信号や、MCA 無線の制御信号等を除去するための空線周波数を選択します。

• 送信出力

送信出力の設定を行います。

• AUTO STEP

ここにチェックマークを付けると、周波数帯にあわせて最適な周波数ステップ (DIAL ツマミをまわしたときの周波数変化量) に自動で切り替わるオートステップに設定できます。チェックマークを外すと、ステップの周波数設定を選択できるようになります。

• ステップ

受信するチャンネルのチャンネルステップを設定します。通常は、周波数を入力するとチャンネルステップは、その周波数に応じた最適なステップに自動的に設定されます。

• TAG

メモリータグを設定すると自動的に TAG にチェックマークが入ります。FT-70D 上このメモリーを呼び出したときに、設定したメモリータグを表示します。チェックマークを外すと、メモリータグの代わりに受信周波数を表示します。

• ATT

ここにチェックマークを付けると、受信感度を約 10dB 下げることができます。隣接する強力な電波によって受信妨害があったときなどに有効です。

• S メータースケルチ

ここにチェックマークを付けると、通常のノイズスケルチと同時に S メーターの振れでスケルチ設定を行なうことができます。

• BELL

スケルチタイプで設定した条件が一致した信号を受信したとき、呼び出し音を出力する機能です。呼び出しベル音の回数を設定します。

• Half DEV

送信デビエーションを約 1/2 にする機能を設定します。

• Clock Shift

マイコンのクロックによる内部スプリアスを受信してしまう場合、ON にする（チェックを入れる）ことで改善する場合があります。

通常は OFF (チェックを入れない) で使用してください。

• コメント

編集した HOME チャンネルにコメントを付けることができます。最大全角 255 文字のコメントを付けることができます。HOME チャンネルのジャンル別の名称等の整理に使用してください。
なお、コメントの内容は FT-70D には転送されません。

トラブルシューティング

FT-70D からデータの受信ができない。または通信がスタートしない

- 通信ケーブルが正しく接続されていますか？
正しく接続してください。
- FT-70D の電池が消耗していませんか？
充電するか、新しい電池に交換してください。
- 通信用の COM ポートが正しく設定されていますか？
COM ポートを正しく設定してください。
- ADMS-10 日本語版は、日本国内向けの FT-70D 専用です。海外仕向けの FT-70DR/DE とは通信できません。
- 通信メニューの「FT-70D からデータ取得」をクリックして、表示される手順とは異なる順序で操作していませんか？
表示されている手順の順序に従って、操作してください。

ADMS-10 から FT-70D へデータの送信ができない

または通信がスタートしない

- 通信ケーブルが正しく接続されていますか？
正しく接続してください。
- FT-70D の電池が消耗していませんか？
充電するか、新しい電池に交換してください。
- 通信用の COM ポートが正しく設定されていますか？
COM ポートを正しく設定してください。
- ADMS-10 日本語版は、日本国内向けの FT-70D 専用です。海外仕向けの FT-70DR/DE とは通信できません。
- 通信メニューの「FT-70D へデータ送信」をクリックして、表示される手順とは異なる順序で操作していませんか？
表示されている手順の順序に従って、操作してください。

データの送受信が途中で止まってしまった

- 通信ケーブルが途中で抜けてしまったか、接触不良ではありませんか？
接続を確認して最初からやり直してください。
- FT-70D の電池が消耗していませんか？
充電するか、新しい電池に交換してください。

データのインポートエクスポートがうまくいかない

- インポート / エクスポートする CSV ファイルの列数を合わせてください。
- 対応するセルに入力する文字列を指定の文字にしてください。
- インポート / エクスポートするメモリー / VFO などのテンプレートファイルを一致させてください。
異なるテンプレート間でインポート / エクスポートするとエラーが出て正常に動作しません。

YAESU
The radio

八重洲無線株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川 2-5-8 天王洲パークサイドビル

1707-A

© 2017 八重洲無線株式会社